

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



会長挨拶

三条南ロータリークラブ会長

星野 健司

皆様こんにちは。

本日は「創立記念例会」です。私共三条南クラブは48年前の1968年6月3日に仮発会式を行い現在に至ります。

この記念すべき例会を「ロータリーを学ぶ機会」にしたいと考え、チャーターメンバーで第20代会長の馬場信彦パストガバナーに卓話をお願いいたしました。ピチャイ・ラタクル2002～2003年度RI会長の本年、青森県五所川原市での特別講演がとても参考になるそうですので、それをもとにお話させていただきます。

また、先般の規定審議会の重要な決定を踏まえ、本日のこの創立記念例会が創立50周年に向け、三条南クラブがより良いクラブに発展していける機会になれば幸いです。

急な例会会場及び例会時間変更のご案内でご迷惑をおかけいたしました。どうぞ最後までお付き合い下さいますようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。



出席率

会員51名中34名

先々週の出席率

86.96% (5/23)

先週のメイクアップ

6/2 三条東RCへ 石山昌宏君 丸山 智君 野島廣一郎君 吉沢栄一君

6/3 2016～17年度第四分区会長幹事会（加茂）へ 丸山征夫君 谷 晴夫君

四つのテスト

一言行はこれに照らしてからー

I 真実かどうか

II みんなに公平か

III 好意と友情を深めるか

IV みんなのためになるか どうか



Be a gift to the world
世界への
プレゼントになろう

—2015-16 年度国際ロータリーのテーマ—

国際ロータリー会長
第2560地区ガバナー
第4分区ガバナー補佐
会長
幹事
S A A

K. R. ラビンドラン [スリランカ]
山 本 和 則 [新潟南]
鳥 部 文 雄 [燕]
星 野 健 司
齋 藤 嘉 一
銅 冶 康 之

事務局

〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

近隣RC例会変更のお知らせ

- ・燕RC 6月23日(木) 新旧役員交替慰労会
6月30日(金) クラブ休会
- ・加茂RC 6月23日(木) 感謝のタベ
- ・吉田RC 6月24日(金) 新旧役員交替慰労会
- ・三条北RC 6月28日(火) 会長幹事慰労会
- ・三条RC 6月29日(水) 会長幹事慰労会
- ・三条東RC 6月30日(木) 会長幹事慰労会

記帳場所：燕三条ワシントンホテル
記帳場所：〃
記帳場所：加茂市産業会館 2F 事務所
記帳場所：燕市吉田産業会館 窓口
記帳場所：三条ロイヤルホテル
記帳場所：三条信用金庫／本店内事務所
記帳場所：三条ロイヤルホテル

※上記クラブが例会変更のため記帳ができます。例会欠席の補填にお役立てください。

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～ 6月6日 11,000円
今年度累計 586,570円 ～

星野君 馬場信彦様、本日は卓話をお引受け
いただき誠にありがとうございました。
齋藤君 馬場信彦さん、
本日の卓話よろしくお願い致します。
馬場君 本日はよろしくお願い致します。
銅冶君 馬場パストガバナー、本日の卓話
よろしくお願い申し上げます。

大湊君 馬場さん、講演ご苦労様です。
野崎君 馬場パストガバナー、本日の卓話
楽しみにしております。
佐藤(秀)君 仕事で早退させていただきました。
馬場さん、お話が聞けずすみません。
坂井君、野水君、渡邊(光)君
BOXに協力いたします。
永桶君 BOXご協力ありがとうございました。

卓話

「創立記念例会」



「ロータリーの基本に返ろう」

馬場信彦パストガバナー
(チャーターメンバー、第20代会長)



国際ロータリー第2830地区 西第1グループ IM 特別講演 より

“BACK TO BASICS” — ロータリーの基本に返ろう —

ビチャイ・ラタクル
2002～03 年度RI会長

木村重介会長、そしてロータリアンの皆様、私がここにいるのは夢ではなく、今、私は皆様の前に立っています。
こうして、バンコクロータリークラブの会長として奉仕しておいで智江美・ソノダ・スベンソン夫人と共に、お
よそ13年振りに青森に戻って来ることが出来ました。

今回の私達の青森訪問は、五所川原ロータリークラブの会長である木村重介氏や、特にパストガバナーである
山崎淳一氏のご厚意によって、1年以上前からご招聘頂いたことにより実現いたしました。

そして、私達の心に密接なそしてロータリーの未来について大変重要な話題についてのこのインターミーティングでお話し出来ることになりました。私はこの招聘を謙虚にお受けし、そしてこのような機会を設けてくださったお二人に心から感謝申し上げる次第です。

そう、私が初めて青森を訪問したのは13年前のことです。その13年がロータリーに、良きにつけ悪きにつけ“変化”をもたらしました。

“変化”について語る時、これはハッキリ申し上げたいのは、私はいかなる“変化”をも否定することはないという事です。もちろん、この現代の世界で我々が前進し、生き延びるためには“変化”がなされなければなりません。100年を経た今でも、ロータリーはそれを厳しく自己評価し、いずれにしろ“変化”することに直面しなければいけないでしょう。それゆえに、我々は変わりつつある世界と歩みを共にするという事は絶対必要な事なのです。

しかしながら、ロータリーはビジネスをする会社ではなく、ボランティアのサービス団体なので、ロータリーの“基本理念”と“永遠の原理”は“変化”によって阻止されるものではありません。

残念ながら、私は今日のロータリーはかつてのロータリーではなくなっていると考えています。私が見てきたことや、1961年の東京大会で学んだこと、そしてその頃の世界のリーダー達から学んだものとは大きく違ったものになっています。

もっとも我々に影響を与えた変化は管理スタイルであり、ボランティア組織から会社スタイルへの変化です。その変化は新しいモデル、新しいプログラム、新しい規定が元々のそれらと取って代わるという明らかに“トップダウン”の指令である事を示しています。

もっとも衝撃的な変化は、まさにポールハリス氏や先輩のリーダーたちが維持しようと努力した、ロータリーの長所である基本的な哲学やその一端を担っているという我々の誇りを“津波”と揺さぶりで変えるものでした。しかし、突然これら全て（ロータリーの基本）は消えてしまいました。

私達が過去に見た、仲間の為に伸ばし広げられた手や心、私たちより恵まれない人々への理解や援助などはロータリーの会合ではありふれた光景でしたが、もはや見られないものとなってしまい、ロータリーの上層部の人々は明らかなロビー活動や選挙運動などが行ない、恥もなく腐敗した方法で栄光や地位を求めるという事によって取って代わられています。

これが、日本や中米、南米、アメリカ、ヨーロッパのロータリアンたちがロータリーに愛想を尽かし去って行った理由の一つであり、ロータリーの活動は歴史書の片隅に留めるだけの程度に会員減少に至るのは時間の問題なのです。私は、ロータリーからの脱会を良しとするわけではありませんが、離れていかれた皆様には共鳴しております。そして皆様はロータリーが、今、“超我の奉仕”やその“基本的哲学”をどう実施していくのかに迷い、他のサービス団体と殆ど変わらないという事が分ると思います。

私は、ロータリーは今や“存続”か“否か”の岐路にあると考えています。それでは、私たちは何をすべきなのでしょう。

ここで私は英国のエドワード8世の言葉を引き合いにお話ししたいと思います。それは、「責任という重荷を背負い、王としての責任を果たすことは、私の愛する女性の手助けと支えなくしては、不可能であることに気付かされた。」という言葉です。皆様、これと同様にここにお集まりの皆様の手助けと支えなくしてはロータリーを存続させる道はないのです。私達が最も必要としているのは人的資源です。人的資源こそがロータリーの宝“ロータリアン”なのです。

しかしメンバーを増やすという切望において、RI理事会が4月10日から15日の間に開催される規定審議会にて審議する幾つかの法案を提案しました。そう、先週です。そして、それがロータリーの会員の基本的原理をぶち壊すものとなりました。

私はこのスピーチを2015年の12月から書き始めました。規定審議会の審議の結果や幾つかの提案事項に関する決定については何も知らず。

しかし、こうして皆様にお話ししている今、その結果は世界のロータリーに知らされており、数日後には公に知ることになるでしょう。この提案は会員の身分、出席率、分類システムに関して、全てのロータリー定款の核心を変えてしまう事なのです。

例えば、標準クラブ定款の第6条(会合)の“例会と出席の規定の例外”を修正する提案があります。これは何を意味するのでしょうか？

例会をいつ、何回するか。出席に必要な要件をどのくらいの頻度で開くか決める。欠席した場合の会員身分の終結方針を修正又は削除する。これらのことについてクラブが選択肢を持っているという意味なのです。

これらについての理事会の言い分は、“毎年、出席に必要な条件を満たせないという理由で8～9%の会員身分が終結されている”というのです。

“それにより、ロータリークラブは会議を構成し、経費削減を管理し、出席率の規制を修正し、より魅力的で見込みのある会員を得る事、現在の会員をつなぎ留め惹きつける事ができる”とし、さらに、“クラブは、会員参加のための経済的、時間的な点に対して理解する最善の立場にある。

例えば、クラブは、もし例会頻度が会員の希望であるなら、週一なり、それより多くも少なくも出来る”というのです。

注) 2016 規定審議会に制定案 16-21 「クラブ例会と出席に柔軟性を認める件」としてRI理事会等より提案され、1時間

にわたる審議の後、毎月少なくとも2回例会を開催するを追加して修正制定案賛成 392 反対 82 で採択。

“このような柔軟性なしには、ロータリーは近い将来、会員の減少や高齢化をたどり、可能性として、会員の減少に歯止めがかからず劇的な衰退をきたすことになるであろう”と。

注) 2016 規定審議会でのビルボイド R I 元会長の賛成意見「クラブの活力が減退していることが今日のロータリーの最大の課題である。若い人たちがクラブに入会しなければクラブは消滅する。若い人たちにはより柔軟性を持った例会開催をすべきであり、この修正案に私は賛成である。」

国際ロータリーはロータリーのような組織の運営は“下意上達方式”であるという事を認めています。それは以前は認めていなかった独立した団体であるという事を認めているという事です。

我が友 ロータリアンの皆さん！

“毎年 8～9%の会員が必要条件として出席率を満たすことが出来ないため退会させられている”という事は全く事実とは異なっています。

“このような柔軟性なしには、ロータリーは近い将来、会員の減少や高齢化をたどり、可能性として、会員の減少に歯止めがかからず劇的な衰退をきたすことになるであろう”と。

注) 2016 規定審議会でのビルボイド R I 元会長の賛成意見「クラブの活力が減退していることが今日のロータリーの最大の課題である。若い人たちがクラブに入会しなければクラブは消滅する。若い人たちにはより柔軟性を持った例会開催をすべきであり、この修正案に私は賛成である。」

私はこれを“大嘘”だと考えています。それは、現在の事務局が、初期の頃にやっていたような記録づけをしていないからという事を知っているからです。私は、公式なクラブ訪問のガバナーレポート、国際ロータリー会長へのガバナーからの地区会議のレポート又は会長代理のレポート類は誰に読まれる事もなく倉庫にしまわれているのを私のこの目でみたのです。私が 2002 年から 2003 年に RI 会長として就任していた頃、ただの一度もこのようなレポートを受け取ったことも見たこともありません。

RI 理事会はまた、このような法案は、もし会員さえ増えるのなら RI の“増収”になることになるとして認めています。これは、現会員および将来の会員に融通を効かすことにより、**どのような形であれ**会員数が増えればいいということにほかありません。

皆様は、それはロータリーの基本原理に**目をつぶり、削除することにより収入さえ増えればいい**と言う理事会の**自白**に他ならないという、私の意見に同意してくださると思います。

もう制定案 16-36 は、国際ロータリーの定款や規則を修正し、標準クラブ定款を修正し**職業分類**システムを完全に**削除する**と同時に、**ローターアクトの会員**がローターアクトクラブに籍を置きながらロータリークラブの会員とするようなことなのです。

ここでもし、この提案が認証されれば、我々の運動の**名を汚す**ことになるのではないのでしょうか。

注) 2016 規定審議会に制定案 16-36 「会員身分に柔軟性を認める件」として RI 理事会等より提案され、賛成 386 反対 75 で採択。なお、「職業分類制度の廃止」については、RI 理事会が事前に修正して提案され、「会員身分の柔軟性」のみの制定案となった。

日本における過去 10 年の会員数も減退の一途であるとしても、落胆することはありません。なぜか？

それは青森、日本全国にはまだロータリーの精神が生きているからです。今日(こんにち)のあなた方の存在があるからロータリー精神が生きているのです。ここで、そして海外で行われているあなた方の数え切れない活動は、人類の生活を向上させるうえにおいて重要な役割を担っているロータリー運動なのである、という事をあなたや私の信念を再確認させてくれました。それゆえに、過去何年にもわたって実践してきたロータリーの**基本理念である“永遠の原理”**を、あなた方と共に分かち合うことは私の特典だと思うのです。

さて、何がロータリーの真の**基本理念**と**永遠の原理**でしょうか？

基本理念とは、我々ロータリー会員の**根本的理念**なのです。この理念は、ポールハリス氏の意向に沿ってロータリーが他の団体と異なるものとして活動する**意志**をもった人々により時代から時代にかけて試練に耐えてきています。

人間誰しもがそれぞれの使命を持っています。ロータリアンとしてロータリーに参加することの最重要な事由と目的は**奉仕**です。これは何にも勝る**使命**なのです。

この使命感は、1958 年にロータリーへの参加を誘われて以来の先輩の会員から任され、受け継いだ導きは今日まで私の心と精神に刻み込まれています。それは、ロータリーを通じて与えられた願望と、いつの時も“**他への思いやりと他の人への役立ち**”となる観念は**意志**と**強い決意**を私にもたらします。

我々が、人々を助け、危険から国をまもると誓った奉仕の理念を忘れ、ただ自分自身の**利益**のみを得るようなロータリアンになることは大なる恥となるでしょう。

我が友ロータリアンの皆さん、我々は、大変な危害や崩壊を引き起こすような、これらの現象に直面し、いつしか国をバラバラに壊してしまった多くの国を見てきています。ロータリーも例外ではありません。

私たちは、ロータリーは常に前進しているという事実を受け入れる反面、常にその原点に戻る...1905 年のシカゴでの偶発的な始まりではなく、本質的な始まりへ返るのです。

手助けするという心へ。 国々を通して**慈愛の種を蒔く**という願いへ。

奉仕という手を差し伸べる願いへ。 そして、**超我の奉仕**の理想を行うという**意志**の願いへ。

これは類がない事なのです。

そして、私がこのことに言及したのは今が初めてではありません。招待された国際会議でスピーチをたのまれる度ごとにこのことをお話ししてきました。

その理由ですか？

私が固く信じて止まない、そして最も良い方法で私たちのクラブを強固にしようとする理由は、基本理念に立ち戻ることであり、ロータリーが長年にわたり我々を導いてきた**4大奉仕**の上に築き上げられているという**永遠の原理**を強く支持することです。

単に会員について言及すると、ラビ・ラビンドラン会長が2015年から2016年の新会員増加の目標を35,000人に決めました。私には、この目標を世界中のガバナーに達成しろという命令、そしてこの数字は**誇張されたもの**であるとは思えません。

日本だけで言えば、**杉谷理事は2ヶ月間で1,401人の新会員**を獲得しなければならないのですよ！実際は、**1,401人**ではありません。杉谷理事は今年のロータリー年の開始から、2015年の7月から2016年の3月までの9ヶ月で**3,755人の新会員**獲得を指示されていたのです。これはボランティア団体であり、一般の会社組織のように、ラビ会長やRI理事会があれこれと指示を出したり命令したりするべきではないと思うのです。

全世界の会員数記録を見ると、2014年の7月には**1,188,539人**の会員がいました。2015年4月（グリーンファン会長時代）には、ほとんどがインド・韓国・台湾でしたが、**45,297人**の会員の増加がありました。これにより、総員で**1,233,836人**となりました。

しかし、2015年の7月1日ラビ・ラビンドラン会長に代わり、2015年4月には**1,233,836人**いた会員数は**1,220,253人**までに減少し始めたのです。これは、たった2ヶ月の間に**13,583人**を失ったことを意味しています。

これはどうしてでしょうか？ 答えは、ロータリーの**永遠の原理**を除外して、異なった新しい手法での会員の**数**だけに熱中したからです。それは、私たちがかつて行っていたような、ロータリアンとしての**資質**を強く求め、励ますことをしていないからです。

その代わり、いかなる方法によってでも認められる“柔軟性”を認めました。ロータリーの最原点の**中核的な価値観**である基本原理を除外しての**柔軟性**です！

ロータリーは**分類制度**の理念を無視してきました。そして、ロータリーに入会する資格のある人は、その業界で認められた人物であり、会社の**管理職**あるいは企業のオーナーであると言う厳格な要件をも無視してきました。

注）2016 規定審議会 16-38 「会員身分の規定を変更する件」 標準ロータリークラブ定款第7条の会員身分の制限をすべて削除され実質的に誰でもロータリーに入会できることに採択。賛成 426 反対 85。

これがロータリー会員の**基本理念**なのです。このような資格なしには、ロータリーはどこにでもあるような社交クラブになってしまうでしょう。

ご存知のように、ロータリーのような組織の運営は、最新の技術を使って運営される企業のそれとは違います。

先日私はブルームバーグビューのコラムニストのレオニドバーシズキー博士が書いた“**学校教育でコンピュータを多用することは学ぶことを妨げる**”と言う記事を読みました。

彼は更に、“**情報技術はすごい、しかし、それは子供達を賢くするのに役立っていない。事実、クラスルームでのコンピュータの多用により、かえってテスト結果が悪くなっている**”と書いています。

私は彼に同感しています。

ロータリーで新技術を使うことは何も悪いことではありません。しかし、ロータリーは、地球上に広く点在するボランティア組織であるということを常に心に留めるべきです。ロータリーは大きな都市から電気や水の供給も十分ではない遠く離れた小さな街まで存在するのです。それゆえ、その運営は**簡素**にして**厳格**なものであることを基にすべきなのです。

更に、ラビ会長は彼が会長に就任した時、日本にのみ地区ガバナー全員に少なくとも2%の女性会員率増加の目標を設定しました。

まさに、主婦達が家事仕事を引き受けてくれるおかげで私たちは存分に仕事に打ち込めています。彼女たちは家を整理整頓し、食事を用意し、そして子育てに励むという家事に専念することでその価値を認められています。そのような状態の時、**主婦たち**をロータリアンにすることは理にかなっていると思いますか？

私にとっては、主婦は主婦なのです。彼女たちは会社の重役ではありません。しかし、彼女たちは申し分のない主婦であり、我々は彼女達を敬愛しています。

1%の会員増加の目標を設定すること、ロータリーの会員としていることへの**特典**を提供することを除いて、最も望ましいやり方として現存する会員を維持することを強調されていませんでした。

特典とは何でしょうか？ ロータリーは、今や“**利益と損失**”に基づいて運営されているのでしょうか？ 私はまったくその答えを知りません。

しかし、ラビ・ラビンドラン氏が会長時代に、当時の会員達を留めるために、当時のガバナー達に特権や特別なボーナスを与えようと考えていたのではないかと考えています。これはまったくロータリーのやり方ではありません。これは世界中の多くの国々のビジネスの世界で行われている**腐敗行為**なのです。ロータリーは決してそのような行為をしてはいけません。

現存の会員たちは、長年にわたって信じ行ってきたことを覆すような**変化**に非常な落胆を感じていると、私は信じています。また、現会員たちは、そのような**特典**を得るようなロータリアンになりたいと**考えたり、期待したり**していないと固く信じています。

我が友ロータリアンの皆さん、ロータリーでは多くの過激な**変革**が行われていますが、それでも未だにR I 理事会を満足させていないということに同意するでしょうね。

R I 理事会は、最近**新しい**考えを提案しました。それは、クラブの**新しいモデル**と、クラブの基本に沿わない“商品”の**2つの革新的な**会員制の案を含むものなのです。今一度繰り返しますが、元々のクラブではない新しいクラブということです。

Eクラブ、これはサテライトクラブですが、すでにほとんどのクラブから強く批判されてきました。今、R I 理事会は**ローターアクトクラブ**が“ショートトラック”という手続きを通して、新しいロータリークラブを作れることを可能にする新しい試験的なプログラムを作ろうとしています。

数年の後には、私たちはもっと多くのEクラブや、サテライトクラブや、“ショートトラック”ローターアクトクラブが世界中のロータリークラブを変えていくのを見ることになるでしょう。そして、R I 理事会はそのことに満足を感じるでしょうが、本来のロータリークラブは次第に消えていくことでしょう。

皆様方にお尋ねしたいと思います。
コンピュータシステムを通じて例会をするようなクラブを持つことが何の役に立つのだろうかということ。
そして、このロータリー年度内に 50 の**ロータリークラブ**を作れることを**ローターアクトクラブ**に許すという新しい“**ショートトラック**”を持つことは何の意味を持つのだろうかということ。

私たちの先輩が培ってきたことや、それを守ろうと一生懸命努力してきたことを無視して、どのような手を使っても会員を増やそうというのがR I 理事会、特に**ラビ・ラビンドラン会長**の考えなのでしょうか？

私はこれらの提案に**反対**し、ラビ会長の主導権に対して**反対**の意見を勇気をもって言える理事がいることを切望し、かつ祈るばかりです。

もう一つ、よく考えなければならないことがあります。それは、新しいプログラム、新しいルールであり、そして新しい規則の出現です。ロータリークラブの運営におけるこれらの変化は、殆どのクラブに大きな混乱をもたらしました。

私の国、タイではほぼ 400 あるクラブの 10%から 15%がこのパターンに従いました。しかし、そのクラブの 90%はこれらが何を意味するのかもまったく知らずに。殆どのクラブは英語を知りません。それゆえ、彼らはロータリーにもたらされた多くの変化を見ないふりをするしかないのです。

さらに、現在はロータリーの仕事は殆ど“**フルタイム**”になっています。我々は、思い出すのも厄介でそこから何か習得するのはまったく困難なような各種の会議を抱え過ぎています。

皆さんは、新しい世代…やがて関与する若い役員たちが、上記で述べたようなクラブに参加したり、自分の仕事を置いてそのような多くの会議をするような時間があると思いますか？ 私は、我々すべてが事実と現実に向き合わなければいけないと思っています。

ロータリーは若い会員を募るのに非常に熱心で、私としても良い考えだと思っています。なぜなら、我々は若い人たちを必要としているからです。もちろん、彼らに**適性**が伴っているべきではありますが。

数ヶ月前、ラビ・ラビンドラン会長がフォーブスという雑誌に関して e-mail を送ってきました。そして、世界の 100 億ドル以上の大富豪は 25 歳から 40 歳の若者であると指摘してきました。

この指摘の理論的根拠はわかりませんが、確かなことは、これらの若き大富豪たちがロータリーに参加したり、数々の会議に出席する時間もないと思うのです。特に、企業の最高経営責任者の管理のもとに雇用として扱われるような形で、人類の生活の向上のために同じ土俵の上で手を取り合って**ボランティア**活動をするロータリーには参加することはないと思います。

私は億万長者ではありません。年金生活をし、ロータリーの会員として自分の多少の時間を割き、いくらかの蓄えを使って、奉仕をしているごく普通の人間にすぎません。それでも、私はこれらすべての会議に出席しなければいけないのであれば難しいことだなと思っています。それは、私のような平均的なロータリアンには経済的に大変な重荷になると思うからです。

私は、ロータリーの生き残りの道は**基本に立ち返る**ことであり、原点の**4大奉仕**を通して運営していくことであると繰り返し申し上げたい。

そう、我が友ロータリアンの皆様、ロータリーのリーダーは、無報酬で人々の生活の向上のために良き仕事をする**ボランティア**であって欲しい、それが私の強い願いであります。金を使う事なしに人類をより良くすることが大切で、彼らは決して億万長者でもなく、百万長者でもないという事を常に心に留めておかねばなりません。それゆえ、我々の先輩たちが引き継いできたように、ロータリーを**簡素**にし続け、そして“**永遠の原理**”を**忠実に守る**ことを強く主張したいのです。

先輩たちは、非常に貴重で神聖な、他の人々への思いやりや他の人々の助けとなる哲学を我々に与えてきました。

2002 年～2003 年国際ロータリーの会長として私は、新任のガバナー達に、手助けを必要としている貧しい人々や、自然災害の苦難に遭遇している人々に “**慈愛の種を蒔く**” こと以外には特別の目標を設定しませんでした。私は、これからもそうし続けるつもりです。なぜなら、ロータリーの基本原理に影響を及ぼす急激な変化が続けば、ロータリーはおそらくいつの日にか地球上から消えるであろうことを知っているからなのです。

そして、それは無欲に奉仕している人や、ロータリーを非常に愛している人たちにとって大きな悲しみの日となることでしょう。

かつて、軍隊の権力がその時代の秩序であった頃、英国軍の侵攻を押しとどめることができませんでした。北から南へ、東から西へ、彼らは強大な軍事力で、一国、また一国と征服して行きました。英国人たちは、自分たちは

決して太陽の沈まぬ偉大な国の国民であることを宣言しました。しかし、第二次世界対戦が終了した 1945 年、その太陽は**あえなく沈んだ**のです。

それと同じように、200 カ国以上の国、世界のあらゆる国に広がりを見たロータリーにも、決して日の沈まないという慢心も見えています。それはあまりにも**楽観的過ぎます**！
現在進められている新会員の増加、現会員の**退会防止策**の失敗やそれに伴う**ばかげた変化**により、決して沈まないと思っているロータリーの太陽は今世紀が終わる前に沈む**可能性があり**、また**そうなる**でしょう。

我々は、**原点に返ること**によりそのことを回避しなければいけません！

今後何年にもわたって我々に続く人たちに、いつか声をそろえて、彼らの先駆者である 21 世紀のロータリアン達は、**超私の奉仕の永遠の原理を勇氣と強い意志**で守ったと言わしめようではありませんか。

そして、私は、現在ロータリーで起きている数々の変化に同意できないのは、このような背景に対し反対しているからであり、ゆくゆくはもっと多くの変化が起こるであろうと確信しているからなのです。

例えば、RI 理事会は、あたかもロータリーの過去のイメージが社会に受け入れられていなかったとでも言わんばかりに、公共イメージに関心を集中してきています。おそらく、このより良いロータリーのイメージ作りをしようとする考えのためか、ロータリーはこのことに莫大なお金を使ってきました。

ロータリーのブランド名、またはロゴの変更だけに 1.4 ミリオンドル（約 1 億 7 千万円）ものお金を使ってきました。しかし、それでロータリーのイメージは良くなったでしょうか？ 皆さんは、心の中でそうではないということを知っているはずです。

140 万ドルは大変な金額です。それは、皆さんのお金であり、私のお金です。単にロゴの色を変え、“ロータリー”というシンボルマークとなる言葉をその前に置くだけです。

そのお金は、違う使われ方、それを必要とする人々のために使われた方がよかったですのではないのでしょうか？ 最近、私は、ラビンドラン会長がロータリーの**バナー**を新しいロゴに従う為に変えようと計画していると聞きました。そして、それはまた新しいデザインのために莫大なお金を使うことになるのです。

それは公共イメージをよりよくすることが目的でしょうか？
再度私は言いたい。それは全くお金の無駄遣いであると！**奉仕**そのものが私たちのイメージを上げるのだと私は言いたいのです。

ロータリーのイメージは**奉仕**であり、そしてロータリーの真のイメージが登場した当初から我々の組織を運営しているやり方なのです。そして、これが適格である会員、特に他の組織との違いをロータリーに見出している経営者としての権威を持っている若い世代の会員を得るための唯一の道なのです。もし、私たちが良い奉仕を行えば、人々が尊敬するイメージを作ることが出来るでしょう。

トヨタの車が、世界のお客様によってその性能や信頼性を受け入れられたのは、何十年もかけてはじめてできたことなのです。**トヨタ**は確かに変化し、時とともに新技術を開発してきました。しかし、だからと言ってあくまでも本来の基本を変えることはなく、**トヨタ**の車は決して消えることはないのです。

同様に、ロータリーの公共イメージは、その行動、高潔さ、誠実さ、そして会員の**資質**によってのみ受け入れられるのです。もしロータリーの指導者たちがこの方向に進むのなら、ロータリーも決して**死に絶える**ことはないでしょう。

しかしながら、我々の現在のリーダーは小切手を切ることとか、寄付をすることが奉仕だと思っているようです。それは**違います**！ もちろん、**慈善**団体のように動くこと、またはロータリーを**企業**のように運営することは私たちの目的ではありません。

もし**基本原理**に立ち返るのなら、我々が**自分たちに与えられた自分たちの時間を役立てようとする時**、**奉仕**の論理的根拠を理解できるのです。

以前、ロータリーの原則を厳格に固守するように申し上げた時、ロータリーの最も重要な側面について述べました。それは、ロータリーのメンバーシップの**基本原則**であり、すなわち**職業奉仕**であります。

職業奉仕は他の組織とは距離を置いています。それは、**他の組織がしないことを我々がする**という職業奉仕なのです。その職業分類の原則も非常にユニークなので、世界はそれを“**ロータリーのトレードマーク**”として認めています。

殆どの組織がなしえない、ロータリーが提供できる**職業奉仕**ほど申し分のない概念があるのでしょうか？

皆さん、約 10 年前のサブプライムローン危機を思い出していただきたい。

多くの金融機関は合法的に、また、おそらくは倫理的に経営している反面、これらの銀行が高潔さを保持していたかということは疑わしいことです。私たちはつい最近の、非合理的に経営をしていた会社がスキャンダルによって破滅し、最終的に崩壊するという状態を見てきました。

私のビジネスマンとして、そして政治家として、また私の個人的な生活において、私は、**職業奉仕**こそがロータリアンが自分たち自身の生活している社会をよりよくするために一番よく行動することができ、最も貢献できる領域であるということを確認しています。

ロータリー内で起こっている数多くの変化に、今しばし考え、自分自身に問いかけて欲しいのです。**職業奉仕**への正しい方向へ向かっているかと。

我々のクラブや社会において、もっともっと人々が私たちのもとに参加するのを見ることができるようなロータリーのより良い公共イメージを作るという望みをもって**職業奉仕**を行っているのでしょうか？

注意深く考えてみてください。そうすれば答えは見つかるでしょう。

我が友ロータリアンの皆さん、私は**職業奉仕**こそがロータリーの心であり、精神であると心から信じています。この奉仕の**本筋**である4大奉仕については、この時点で全く何も言及されていません。それは、ロータリーの真の価値ですが、ロータリーの**永遠の原理**を無視し、さらに会員を増やすことや、もっと収入を増やすための変化だけが述べられています。それは私をひどく悩ませています。

職業奉仕に関して特別に重視することもなく、**職業分類制度**、出席規則を取り除いたり、新会員獲得のための多くの新しい近道モデルを見通すだけでは、**ロータリーはもはやロータリーとは言えなくなってしまいます**。

行動規範の第5項目でさえ、ラビ・ラビンドラン氏が会長エレクト職にあった2014年に削除されました。その時、確固として立ち上がり、削除に反対票を投じたのは日本の理事一人だけでした。しかし残念ながら、彼の試みは成功しませんでした。

注) 行動規範第5項目「事業や職業における特典をほかのロータリアンに求めない。」

注) ロータリアーグローバルリワードの導入～ロータリアンへの特典プログラム

それゆえに、**原点への回帰こそが我々がすべきこと**なのです。ロータリーにもっと若い経営者を獲得しようとするのなら、我々はそのために努力して行かなければなりません。

我々がロータリーの奉仕活動について語る時、2011年3月11日に日本を揺り動かし、幾千人もの人々を死亡させ、何万にも人々の家を奪い、絶望の淵に追い詰め、国土に多大な被害を与えた津波を引き起こしたあの恐ろしい地震を思い出すのです。そしてまた、ついこのあいだの2年前の9月に多くの人を死亡させた、洪水の余波で大きな被害を受けた東京北部の街。人口65,000人の常総市の地域が鬼怒川の決壊で流されてしまい、その結果、この数十年ぶりの大雨の後32平方キロにわたって洪水に見舞われました。

この二つの出来事において、早急な援助を必要とする被災者のために最も機敏な行動をとったのが、日本のロータリーでした。それは、ロータリー哲学の基本的原則の“**他への思いやり**”と“**他への手助け**”でした。

ロータリー財団 設立の父**アーチ・クランプ**のように、ロータリーに**意志と信頼**を持っていただけではなく、ロータリーは何かもっと重要なことをしなければならないのではないかという**先見の明**を持っていました。

そして、今日まで**ロータリー財団**が人類のために莫大な力を発揮したことはよくご存知でしょう。

ポリオプラスプログラムだけをとっても、1985年以来10億ドル以上を費やしてきたにもかかわらず、我々は今やっとトンネルの先の光を見るのです。

まさに、我々はその到達点に近づいているのに、“**終了したのだ**”と言えるまでにはまだまだ**遠い先**のように見えます。それは、ロータリーに社会的に良い公共イメージを与えるこのプログラムに使われたお金だけではなく、このポリオ撲滅キャンペーンの間に失われた**人々の命**のことなのです。

そのうちの一人は、バンコクの北にある小さな街ラングシットのロータリークラブ会長エレクトのヨンチャイという若きロータリアンでした。ヨンチャイ氏には妻と幼い3人の子供がいました。彼は車のパーツを販売する小さな会社のオーナーでした。彼の収入は非常に少なく、彼の家族を養い、ロータリーの会員でいるのが精一杯なものでした。

彼はポールハリスフェローではありませんでした。というのはフェローになるため一度に1,000ドル寄付する余裕がなかったためでした。彼は常にポリオプラスプログラムに強い関心を持っていましたが、彼の少ない収入でその願いを叶えることは困難で、少しでもそのプログラムに関わりたいという願いを諦めざるを得ませんでした。しかし、彼は毎年ロータリー財団へ100ドル寄付する“**エブリロータリアン・エブリエヤー**”のメンバーを数年続けました。

ヨンチャイは、ほとんどの時間を才能とエネルギーをこのプログラムのためにお金を集めようと、地区をまわることにつぎ込みました。それは、彼のクラブの会員だけではなく、地域社会やロータリアンではない友人たちにも及びました。

彼は、彼のクラブがポリオ撲滅活動に真剣に関わり始めたので、ロータリーの友人たちに、あらゆる世界免疫デー(NID)に**参加する**ようにと促したのです。ヨンチャイは、“**参加し**”と“**自ら関わる**”行動が大切と信じていました。

それは4月の非常に蒸し暑い日でした。ヨンチャイは、妻と娘と、ロータリーの友人とで小さなサンパン(一本マストの小型平底船)に乗ってNIDのために、大切なポリオのワクチンを携えて出かけました。1日を、長いくねくねした運河に沿った幾つかの、親たちがワクチン接種のために子供達を連れてきている村で過ごしました。ヨンチャイにとっては骨の折れる仕事でした。彼の全身は汗でびしょ濡れになっていました。

太陽が沈み始め、帰宅の時間になりました。突然、運河の水門が翌日の農作業のために開かれました。ヨンチャイは、流れが急で家族に危険が及ぶであろうという状況を把握していませんでした。

彼は流れに逆らって船を漕ぎ続けました。その結果、その小さな船は転覆してしまいました。彼は一方の手で残りのポリオワクチンを握り、他方の手で7歳の娘を抱えました。彼は岸に泳ぎ着き、取っ手返して危うく溺れかかっている妻を救いあげることができました。

その時まで、彼の友人は岸にたどり着くことができたが、ヨンチャイ自身はあまりにも疲れ切っていて、自分の体の重みを引き上げることができなかったのです。岸には誰も助けてくれる人がおらず、ヨンチャイは溺れてしまいました。太陽が遠く地平線の先に落ちる頃、彼も水底に沈んで行きました。

私は翌日、彼の葬儀に出席しました。私は、彼の妻と娘に会い、彼の友人にも会いました。

みんな助かりました。残されたワクチンも含めて... 一人の奉仕の精神を持った行動によって、人生の全てを**良い行いと人々への贈り物であろうと**努力し捧げた人によって。ヨンチャイは家族には多くを残しませんでした、しか

し、彼は、ロータリーの奉仕の真の価値は資金を集めなければならないのではなく、財布としての奉仕ではない、真の奉仕は他に対する思いやりと手助けであるという遺産を残したのです。

我々全員が、原点に立ち返る必要があるということを今一度証明したなんと優れた例ではないでしょうか。

ロータリーの基本精神を持たない短絡的な会員とは立場を異にする、奉仕の心を持った会員を必要としているということを証明したなんと優れた例であります。

そして、アーチ・クランプだけではなく、彼と同じような先見性を持った、日本のロータリー設立の父 米山梅吉もそうでした。1952 年、東京のロータリークラブが、米山梅吉さんの功績を記念して国際奨学金制度を立ち上げたのはよく知られていることでした。

米山氏の夢は、日本で勉強するために海外からきた何千人もの若い男女に奨学金を提供することでした。これらの若い人々は、日本での勉学中の教育を享受しただけではなく、豊かな日本の文化やマナーを受け継ぎ実践してきました。彼らは、海外の学生たちとの絆を深め、世界との理解、友好と平和を促進し強める役割を担っているのです。

私はこれらの若者に会ってきました。そして、その過程を経た彼らは米山氏が期待した通りになっていることを確信しました。

あなた方はこのプログラムを誇りに思うべきです。我々は大いに米山氏の恩恵を受けており、そして私も例外ではありません。

数年前、私は彼のお墓を訪れその墓前にひざまずきました。その時、えも言われぬ謙虚と感動が私を打ちのめしました。ここに、一人の普通の男が眠っています。ここにいる私達と同じごく普通のロータリアンです。彼は世界でよいことをしようという意思をもち、ロータリーは簡素であり実践する組織として、どのような境界をも越えて発展していくという信念の持ち主です。

もう一つ、日本のすべてのクラブが 10 年以上参加してきた賞賛すべきプロジェクトは、カンボジアでの地雷除去プロジェクトです。その後多くのロータリーや世界中のロータリアンを巻き込み、特に、このプロジェクトには、10 年以上もの間一生懸命働いてきた数千人の日本のロータリアンが関係してきました。

このプロジェクトは、国境に面した地域に住む何千万という罪のない人々を救ったのでした。これは、“慈愛の種を蒔く”ということを態度で示したものです。これこそ、公共イメージとしての真のロータリーの姿なのです。地雷除去プロジェクトにあなた方が従事したこと、何千万もの罪なき人々を救ったことは、真の“人類への贈り物”となったのです。

さて、私のお話も終わりに近づいていますので、皆様に一人の少年と船長についての短い物語を申し上げたいと存じます。

ある夕方、船長は客室ボーイをデッキに呼んで、彼に舵をとるように言いました。船長は北極星を指差し、あの星を目指すように指示しました。

少年は、誇らしく、自信をもって舵をとり始めました。少しの間はコースは航路に沿っていました。そのすぐ後から航路をずれ始めたのです。まもなく、星は船の横に見えたのですが、しまいには船の後方になっていました。それと同時に船長が現れました。彼は少年の大声の叫びを聞きました。“船長、船長！別の星を指してください。あまりに楽しかったので、あの星を通り越してしまいました”

我が友ロータリアンの皆さん、ロータリーの目的は、それぞれのクラブに、重要な奉仕のための海図を供給することであるということを思い出してください。

もし、われわれが成功裏に航海しようとするのなら、ロータリーの基本哲学やロータリーが創設されてから創設者から受け継いでいるロータリー会員の資格要件などの“北極星”を常にわれわれの前に掲げなければなりません。その時のみ、ロータリーは正しいコースに向かって確実に進むことができます。その時のみ、資格を充した若い世代が、良き航路のために時間やお金を充てることに、またロータリーに参加したことに誇りを持つことができます。

原点への回帰は、ロータリーの航海を成功裏に導く鍵なのです。

私は 90 歳になり、人生の日没に向かっての旅が始まっていることを自覚しています。この 60 年間、私が愛し、生きてきたロータリー活動へ奉仕するための時間が、後どれだけ残されているか予想はできません。

しかし、私は知っています。私が目的地に到達したその時、私がこの手につかむことができるのは、私が誇りをもって与え捧げてきたものであることを。

国際ロータリー第2830地区 西第1グループ IM

日程：2016年 4月23日

場所：プラザマリユウ五所川原

委員会報告

長谷川 直 哉 親睦・プログラム委員長



会長幹事慰労会

ご案内

- ✧ と き 2016年 6月27日(月) 18:30～
- ✧ と ころ 割烹 松 木 屋 ☎ 34-5252
- ✧ 会 費 3,000 円
- ✧ キャンセル 当日6月27日 10:00 までにご連絡下さい。
それ以降、会費ご負担いただきます



誕生日

6 月のお祝い



- ◆ 会員誕生 2日 熊倉高志君 5日 太田義人君
18日 渡邊光郎君 21日 星野健司君
23日 加藤峰孝君
- ◆ 夫人誕生 3日 長谷川有希子(直哉)さん 4日 太田尚子(義人)さん
19日 永井由紀子(篤利)さん
- ◆ 結婚記念 8日 内藤豊大君・裕理さん 10日 佐々木常行君・朋子さん
11日 平松修之君・貴子さん 14日 大溪秀夫君・明子さん

おめでとうございます

我等の生業



荒澤 威彦

(昭和34年 2月 2日生まれ)

2001年 2月入会

職業分類 保険業
事業所名 日本生命保険(相)
Office 荒澤
事業所住所 三条市旭町 2-4-43
事業所TEL 0256-33-0143
事業所FAX 0256-35-0227
事業所e-mail arasawa@sirius.ocn.ne.jp
HP URL

日本生命保険(相) Office 荒澤

日本生命

検索

あいおいニッセイ同和損保

検索

三条南ロータリークラブ週報

2016. 6. 6

No.2202 No.38